

健康情報活用基盤構築のための標準化及び実証事業

PHRデータ交換規格 要求定義書

平成 22 年 10 月

全体委員会

目次

はじめに	1
1 . 目的	2
2 . 適用範囲	3
3 . 用語の定義	4
4 . 関連規格	6
5 . 文字コード	7
6 . エクスポートパッケージ	8
7 . CDA 文書本文のファイル構造	10
7 . 1 . 基本ファイル構造	10
7 . 2 . 外部参照ファイルのリンク方法	10
7 . 3 . CDA 文書本文のボディ部情報の外部参照ファイル化	11
8 . データ項目	13
8 . 1 . エクスポートパッケージ情報	13
8 . 2 . PHR システム利用者情報	14
8 . 3 . PHR システム利用者追加情報	14
8 . 4 . 日常情報	14
8 . 5 . 健診情報	18
8 . 6 . 指導情報	18
8 . 7 . 診療情報	19
8 . 8 . 本文外部参照ファイル化情報	20
別紙 1 PHR データ交換規格 項目定義一覧	
別紙 2 PHR データ交換規格 データコード表	

はじめに

本仕様書は平成 20 年度の「健康情報活用基盤構築のための標準化及び実証事業」実証システム仕様書(案)から、PHR データ交換規格に関連する部分を分離し、平成 21 年度の実証結果を加味してまとめたものである。

本仕様書は各 PHR 事業体間で継続的に利用すべき健康情報に関しては各事業体間でのエクスポート及びインポートが可能ないように、そのデータ交換のための要求定義を記述した。実際の運用に当たっては、実装仕様書にもとづいたシステム設計及び運用・普及 WG が定めた運用方針に従うことが求められる。

本仕様書において、PHR(Personal Health Record)は健康情報に定義されている様な情報を含む、個人の健康維持や増進、また診療に際して有用と考えられる健康管理に参考となる情報の記録を指す。この情報は個人により管理され、記録される内容については個人の管理責任の範囲で保証される。

1. 目的

健康情報を有する PHR システム利用者が、契約する PHR 事業者を変更することによって適切な健康増進や医療のサービスを継続して受けられなくなることは極力避けるべきである。本規格はそのためには PHR システム間でデータ授受が適切に行われる必要があり、この為のエクспорт/インポートデータの標準規格に対する要求事項を記述する。

2. 適用範囲

本規格は PHR サービス事業者を変更する時に、今まで蓄積したデータを新しいサービス事業者に移転して継続したサービスを受けられる為にデータをエクスポート及びインポートする為のデータフォーマットに適用される。

個々の PHR 事業者のサービスによるデータ構造を規定したものではない。

各項目の詳細は別紙 1「PHR データ交換規格 項目定義一覧」及び別紙 2「PHR データ交換規格 データコード表」に示す。また、実際に実装する為には CDA 文書化する必要があり、そのための実装仕様書は別途作成されるものとする。

本規格は PHR 事業者を完全に切替える場合のみではなく、一時的に他の PHR 事業者を利用する場合あるいは、PHR システム利用者が幾つかの PHR 事業者と契約している場合に事業者間で部分的なデータのエクスポート/インポートを行なう場合にも使用可能である。

3. 用語の定義

1)健康情報

個人の「利用者基本情報、日常情報、健診情報、指導情報、診療情報」の総称。

2)PHR システム

医療・健康サービスを提供することを目的として、健康情報を管理するシステム。

3)エクスポート

本規格では PHR システムから健康情報の一部または全てを抽出し、出力すること。

4)インポート

本規格では他の PHR システム(コンソーシアム)及び外部機関等より受領した健康情報を自 PHR システムへ登録すること。

5)PHR 事業者

PHR システム利用者と直接または間接的に契約を締結することにより、健康情報を預かり、当該情報を活用する仕組みを提供する者。例えば、以下のような業務を行う。

- 健康サービス提供者や医療サービス提供者に PHR システムのアクセス権限を付与し、PHR システム利用者に対する各種サービスの委託・指示を行なう。
- 情報処理事業者に対して PHR システムの管理業務を委託・指示する。

上記例の各団体・者は、PHR 事業者との契約内容により、コンソーシアムに含まれる場合と、コンソーシアムに含まれない場合がある。

6)PHR システム利用者

健康情報を基に各種サービスを受けることを目的として PHR 事業者と直接または間接的に契約し、PHR システムを利用する者。

7)食事バランスガイド

「食事バランスガイド」は、健康で豊かな食生活の実現を目的に策定された「食生活指針」(平成 12 年 3 月)を具体的に行動に結びつけるものとして、平成 17 年 6 月に農林水産省と厚生労働省により決定された。「食事の基本」を身につけるための望ましい食事のとり方やおおよその量をわかりやすく示している。

http://www.maff.go.jp/j/balance_guide/b_about/index.html

8)「つ(SV)」

食事バランスガイドで使用される食事の提供量の単位。サービング数を示す。料理ごとに主食、副食等に分けて記述された料理コード表を利用する。

9)エクササイズ 2006

厚生労働省が作成した「健康づくりのための運動指針 2006」のこと。生活習慣病を予防するための身体活動量・運動量及び体力の運動基準に基づき、安全で有効な運動を広く国民に普及することを目的として策定された。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/undou.html>

10) 「メッツ」(強さの単位)

身体活動の強さを、安静時の何倍に相当するかで表す単位である。例えば、座って安静にしている状態が1メッツ、普通歩行が3メッツに相当する。

11) 「エクササイズ (Ex)」 (=メッツ・時)(量の単位)

身体活動の量を表す単位で、身体活動の強度(メッツ)に身体活動の実施時間(時)をかけたもの。

4. 関連規格

1)平成 19 年度経済産業省「医療情報システムにおける相互運用性の実証事業医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクト」“システム設計書”(以下、「相互運用性システム設計書」と略す)

http://www.jahis.jp/sougounyou/H19system_sekkeishou_saishuu/H19system_sekkeisho_top.html

2)「XML 用特定健診項目情報」(厚生労働省が特定健診の実施に対して制定)(平成 20 年)

<http://tokuteikenshin.jp/update/spec2008/XMLhc08tab.pdf>

3)臨床検査マスター(MEDIS-DC)(平成 22 年)

<http://www2.medis.or.jp/master/kensa/index.html#dl>

4)J-MIX(電子保存された診療録情報の交換のためのデータ項目セット)(平成 11 年)

<http://www2.medis.or.jp/master/jmix/>

5)特定健診の電子的なデータ標準様式 特定健診情報ファイル仕様説明書 (Version 1.27)

http://tokuteikenshin.jp/update/spec2008/hc08_doc_v127.pdf

6)HL7J-CDA-001 患者診療情報提供書規格(V1.00)

<http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-001.pdf>

7)HL7J-CDA-002 CDA 文書電子署名規格(V1.02)

<http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-002.pdf>

8)HL7J-CDA-003 CDA 文書暗号化規格(V1.02)

<http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-003.pdf>

9)HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格(V1.01)

<http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-004.pdf>

10)HL7J-CDA-005 診療情報提供書規格(医療機関への紹介状)(V1.00)

<http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-005.pdf>

5. 文字コード

1)本仕様書で用いる HL7 メッセージの文字コード

1 バイト系文字コードは ISO IR-6(ASCII 文字コード)、2 バイト系文字コードは ISO IR87(JIS 漢字コード)を使用する。

文字コードの切り換えには ISO2022-1994(JIS-X0202)を使用する。

1 バイト系→2 バイト系 : ESC 02/04 04/02 の 3 バイト

2 バイト系→1 バイト系 : ESC 02/08 04/02 の 3 バイト

ISO IR87 がない 2 バイト系文字は類似形態の文字またはひらがな(カタカナ)とする。

半角カタカナ(ISO-IR13)の使用を禁止し、JIS 補助漢字(ISO-IR159)の使用も推奨しない。

2)HL7 CDA Release2 による CDA 文書の文字コード

ISO/IEC10646:2003 UTF8 を推奨する。

6. エクスポートパッケージ

1) ディレクトリ構造

ディレクトリ構造は、日本 HL7 協会が定めた可搬型電子診療文書媒体規格 HL7-CDA-004 に従うこと。本方式は既に診療情報提供書の交換の実績があり、HELICS 協議会医療情報標準化指針でもある。ディレクトリ構造の例を図 6.1 に示す。

本パッケージで保存されるファイルは、CDA 文書本文ファイル、外部参照ファイル、スタイルシート等や CDA 文書本文ファイルを簡易に表示する為の Viewer 関連ファイルよりなる。



図 6.1 ディレクトリ構造のイメージ

ファイルの命名基準は HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格による。

CDA 文書本文は HL7CDA ディレクトリに配置しなくてはならない。また、HL7CDA ディレクトリは最低 1 つなくてはならない。

2) 可搬電子媒体

PHR データを移動する場合、一人一人の個人ごとに行うとしても長期にわたるデータを移動しなければならないし、画像や波形などの大容量のデータが附属されることがあるな

どの理由から、データ全体の容量も大きなものになる可能性があるので、可搬電子媒体を用いる場合は CD-R または DVD-R を用いること。

また、署名・タイムスタンプを使用する場合は日本 HL7 協会が定めた規格 CDA 文書署名規格 HL7-CDA-002 に従うこと。

データの安全性を確保するために、格納される文書について暗号化を行う場合は同 CDA 文書暗号化規格 HL7-CDA-003 に準拠して行うこと。

さらに、格納されたデータの所有者(PHR システム利用者)を混同しないように事業体名、利用者番号を媒体ラベルに表示すること

3)BOM(Byte Order Mark)の取扱

ファイルへの BOM の付与は任意とするが、BOM が付与されたファイルをインポートできる仕様とすること

7. CDA 文書本文のファイル構造

7.1. 基本ファイル構造

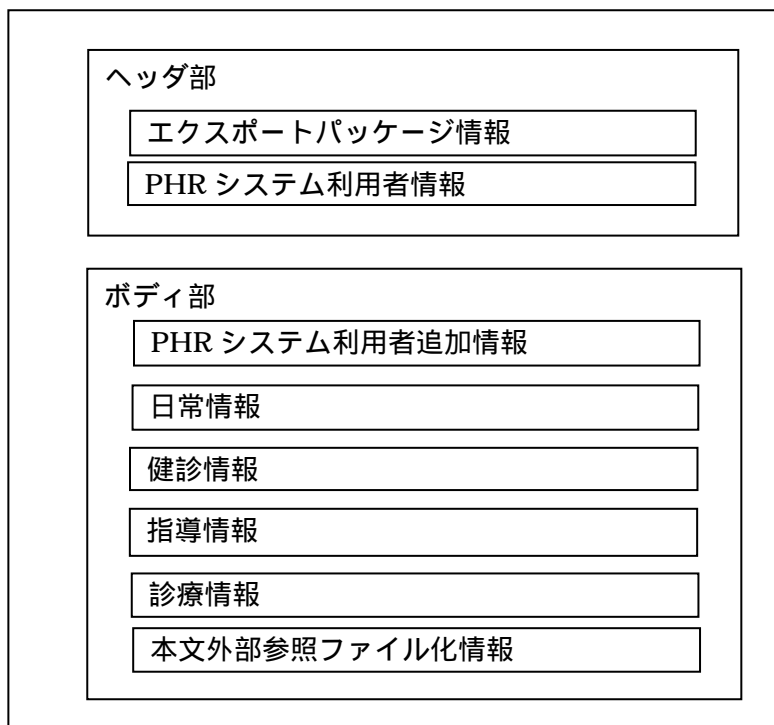


図 7.1 CDA 文書本文の基本ファイル構造

CDA 文書本文はファイルの属性を示すヘッダ部分及び個々の健康情報を示すボディ部からなる。ヘッダ部分はエクスポートパッケージ情報、PHR システム利用者情報よりなる。ボディ部は PHR システム利用者追加情報、日常情報、健診情報、指導情報、診療情報、本文外部参照ファイル化情報よりなる。他の規格により定められた既定のファイルフォーマットを使用する場合は外部参照ファイルとして、本文からリンクされ、改ざん防止用のハッシュコード情報とパス情報により管理される。

ボディ部には CDA 規格で定義されている用語で説明するとセクションから構成され、更に、セクションは、任意のエントリーから構成される。検査項目を一連の項目として扱う時は、エントリーの下位層に任意の数のエントリーリレーションシップを使用し、エントリーで一連の項目としてまとめる。

エントリーやエントリーリレーションシップには、他のデータや画像、波形等のマルチメディア情報とのリンク情報を含むことができ、それらは外部参照ファイルとして扱われる。

7.2. 外部参照ファイルのリンク方法

1) 外部参照ファイルの為の本文記述必要項目

外部参照を識別する為の情報として、本文に名称、作成日、ハッシュ情報、パス情報を

記述しなければならない。また、必要に応じ作成者、作成機関及びコメントを記述してもよい。

記述形式によりファイル形式情報、メディアタイプ情報が必要になる場合がある。別紙 1 の項目定義一覧には主な 4 項目として名称、作成日、ハッシュ情報、パス情報を掲載している。

2)外部参照ファイル識別の為の Viewer 表示

外部参照ファイルそのものは Viewer で表示することは義務づけないが何を外部リンクしているか本文の Viewer で識別表示するために Viewer は本文に記述されたファイル区分の為の名称、取得日時情報、必要により作成者及びリンク情報を表示しなければならない。

3)外部参照としてリンク可能なファイルの形式

外部参照ファイルとしてリンク可能なファイル形式は特に記載のない場合は CDA 文書形式ファイル、HL7 形式ファイル、XML 形式ファイル、EXCEL 形式ファイル、CSV 形式ファイル、Word 形式ファイル、PDF 形式ファイル等標準化あるいはデファクトスタンダードにあたるファイルとする。

7.3. CDA 文書本文のボディ部情報の外部参照ファイル化

長期にわたるデータになると本文上に羅列し記述すると本文の記述が膨大になりすぎ、Viewer で表示した時に識別しにくくなる。また、情報を活用する場合、まとまった情報ごと外部参照ファイルとしてファイルされていた方がそれぞれの情報を活用しやすい場合が多い。

その為に、エクスポートファイル作成にあたり、本来、本文に記述することができる項目であってもまとめて外部ファイルとして扱っても良い。これを本文外部参照ファイルという。

1)本文外部参照ファイル化の単位

添付の「項目定義書」の大分類、中分類あるいは小分類のどの単位でもまとめて外部参照ファイルとすることができる。

また、外部ファイルは各分類で一つではなく適当な区間で幾つかのファイルに分割したものをそれぞれリンクしても良い。

外部参照ファイルの形式は本文と同様にヘッダ部とボディ部からなる。ヘッダ部におけるオプション部分を省略しても良い。小分類を外部ファイル化する場合はボディ部に大分類、中分類も記述し、一つのファイルとし、複数個の小分類の繰り返しとして外部参照ファイル化する。

中分類レベルで外部ファイル化する場合は大分類をボディ部に記述し中分類の繰り返し

記述を外部参照ファイル化する。

2)本文外部参照ファイルの為の本文リンク記述必要項目

7.2.1)と同様に、本文に名称、CDA 文書本文作成開始日、CDA 文書本文作成終了日、コメント、ハッシュ情報、パス情報を記述しなければならない。CDA 文書本文作成開始日、及びCDA 文書本文作成終了日は外部ファイル化するCDA文書本文を区別する日付を記述し、コメントはその定義を自由記述する。また、必要に応じ、作成者、作成機関を記述してもよい。記述形式によりファイル形式情報、メディアタイプ情報が必要になる。「PHR データ交換規格 項目定義一覧」には主な4項目として名称、CDA 文書本文作成開始日、CDA 文書本文作成終了日、ハッシュ情報、パス情報を掲載している。

この場合 CDA 文書本文作成開始日及び CDA 文書本文作成終了日は外部参照ファイルの単位を適切に表現できる事項を記述する。必要に応じコメントを加えても良い。ファイル形式情報、メディアタイプ情報は CDA 文書を外部参照ファイルとする場合に準ずる。

3)健康情報の本文記述と本文外部参照ファイルの混合

ある分類に属する項目を本文中に記述し、他の分類に属する項目を本文外部参照ファイルとする混合方式も可能とする。

同様に同じ大分類や中分類の中でも、ある期間は本文中に記述し、それ以外の期間の情報は外部参照ファイルとすることも可能とする。

8. データ項目

詳細定義は、別紙 1 の項目定義一覧による。ここでは項目定義一覧を使用するに当たっての考え方を述べる。

8.1. エクスポートパッケージ情報

エクスポートパッケージ情報は作成日情報、パッケージ ID、パッケージ有効期限、提供元機関情報、提供先機関情報からなる。

1) パッケージ ID

機関内のエクスポートパッケージを一意に特定する ID であり、提供元機関 ID 及び日付と合わせて、全パッケージにおいて一意に特定できるように設定する。

提供元機関 ID と日付で特定できれば毎日「1」から始める必要はなく、運用は各事業者の運用に任されている。例えば同じ事業者で異なるサーバから発行されることがあれば、それぞれのサーバの初期値をサーバごとに ID が重ならないようにする運用を行ってもよい。

2) パッケージ有効期限

エクスポートパッケージに対して提供先機関及び利用者からの問い合わせに提供元機関が対応する期間を示す。

3) 提供元機関情報

提供元機関 ID、提供元機関名、提供元機関住所、提供元機関連絡先よりなる。

提供元機関 ID はエクスポートパッケージを提供する機関の ID を示し、提供元機関を一意に特定できる必要がある。当面、PHR 事業者の代表電話番号の先頭の「0」を除き、当該機関の国番号(81)を先頭に付した番号とする。

+ や- はつけない。例えば(03)1234-5678 なら 81312345678 とする。

PHR 事業者の事業化が進んだ場合は事業者番号の登録体制を確立して ID を発行することが望ましい。また、健診機関、健診指導機関、薬局、医療機関等との番号体系とも整理していくことが必要である。

4) 提供先機関情報

提供先機関 ID、提供先機関名、提供先機関住所、提供先機関連絡先よりなる。提供先機関 ID の採番方法は提供元機関 ID と同様である。提供先機関情報項目はオプションで提供先がきまらずに個人に PHR データを提供する場合は記述しない。

また、インポートした場合、提供先機関情報と提供を受けた機関が異なる場合は異なっていることを利用者に注意喚起を行ない、その上で問題がなければインポートしてもよい。

各事業者の運用規定により決めるものとする。

8.2. PHR システム利用者情報

PHR システム利用者情報は利用者情報、緊急連絡先情報からなる。

1)利用者基本情報

利用者基本情報は利用者 ID、利用者氏名、住所、連絡先、性別、生年月日よりなる。

利用者 ID は提供先機関で一意に区別される必要があり、提供元機関 ID とその機関の規定により一意になるように採番した利用者 ID に加え、提供先 ID、地域連携 ID などの識別子や保険者番号と被保険者証等記号及び番号の組み合わせによる識別子が必要に応じ記述できなくてはならない。

連絡先は連絡先区分、通信使用機器、連絡先からなる。連絡先区分は一般的には自宅、勤務先、緊急連絡、携帯電話をさす。また、使用遠隔通信機器は、音声の電話番号、FAX 番号、電子メール等を区別する。

3)緊急連絡先情報

緊急連絡先情報は緊急連絡先氏名、緊急連絡先住所、緊急連絡先、緊急連絡方法よりなる。

緊急連絡先氏名の利用者との続柄は項目コード表として J-MIX C0002(OID = 1. 2. 392. 200119. 3. 102)続柄コード表を参考にし、親族との続柄のみではなく内縁関係、親戚、共同生活者、後見人、介護者、民生委員、隣人、友人等に関する関係も記述可能としたコード表を用いる。

8.3. PHR システム利用者追加情報

利用者属性情報は勤務先情報、職業、趣味よりなる。

1)勤務先情報

勤務先情報は勤務先名、勤務先住所、勤務先連絡先よりなる。

2)職歴

利用者の現在の職業を含む、職歴に関する情報を示す。

3)趣味

利用者の趣味を示す。

8.4. 日常情報

日常情報は基礎情報、バイタルサイン情報、喫煙情報、栄養情報、運動情報よりなる。

1)基礎情報

基礎情報は身長、体重、体脂肪及び腹囲からなる。それぞれ独立した時刻のデータを記録可能とする。詳細は別紙 1 の項目定義一覧による。

2)バイタルサイン情報

バイタルサイン情報は血圧及び脈拍よりなる。それぞれ独立した時刻のデータを記録可能とする。詳細は、別紙 1 の項目定義一覧による。

3)喫煙情報

喫煙情報は、喫煙の有無、1日の平均喫煙本数、喫煙年数、喫煙月数からなる。ある時点における喫煙状態の記録が可能で、毎日入力することも可能である。

詳細は別紙 1 の項目定義一覧による。

4)栄養情報

日常のカロリーの管理の為には日本糖尿病学会編の「糖尿病食事療法のための食品交換表」や女子栄養大学による「四群点数法」があるが、本規格では健常者の食事管理を目的とするので農林水産省と厚生労働省が推進している「食事バランスガイド」を記述できることとする。

カロリー管理の記録も公開された記述方式があればそれを外部参照ファイルとしてリンクしても良い。

	料理	主食	副菜	主菜	牛乳	果物
朝						
昼						
夕						
間食						
計						

図 8.1 食事バランスガイドによる食事管理(1日分)

食事バランスガイドでは朝・昼・夕・間/その他食にわけて摂取量を料理ごとに主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品及び果物にわけて SV 量及びその料理のカロリーを記録する。また、1日分の各 SV 量及びカロリーも集計する。摂取量はサービング数「つ(SV)」を用いる。図 8.1 に集計表の一例を示す。

食事内容を詳細に記録する場合は、まず、その日の朝食にどのような料理をとったかを記述し、料理コード表より主食、副食等に定められたサービング数「つ(SV)」を記録する。各料理のデータの例は、別紙 2 のデータコード表の「つ(SV)早見表」にある。これを朝食に取った料理の種類ごとに記録する。これを昼食、夕食、間食ごとに記録する。

1日の料理を総合して1日のサービング数「つ(SV)」を主食、副食等に分けて計算する。いつどのような料理や食事をしたかばかりでなく、食事のバランスを確認するために料理ごとのサービング数を用いることが想定されるため朝食、昼食、夕食、間食の区別なく記録することも可能である。

食事内容を詳細に記録しないで1日の摂取量のみを主食、副食等に分け「つ(SV)」を記録しても良い。データ項目の詳細は別紙 1 の項目定義一覧による。

料理名称は、別紙 2 のデータコード表の「つ(SV)早見表」の料理名をテキストで記述する。

別紙 2 のデータコード表だけでは料理名は足りないので、当面各事業者で料理コード表を作成しても良い。

その場合はエクспортファイルに料理コード表を外部参照ファイルとして添付する。

料理コード表のファイル形式は特に定めず、7.2 3)に記載された標準化あるいはデファクトスタンダードにあたる形式とする。その場合、記録に利用された該当項目だけでなく表全体を添付する。

5)運動情報
























	活動内容					運動	生活活動	合計
月	 買い物	 床そうじ	 床そうじ			0Ex	3Ex	3Ex
火	 子供と遊ぶ	 子供と遊ぶ	 エアロビクス	 エアロビクス	 エアロビクス	3Ex	2Ex	5Ex
水	 買い物	 床そうじ	 床そうじ			0Ex	3Ex	3Ex
木	 子供と遊ぶ	 子供と遊ぶ				0Ex	2Ex	2Ex
金	 買い物	 エアロビクス	 エアロビクス	 エアロビクス		3Ex	1Ex	4Ex
土	 子供と遊ぶ	 子供と遊ぶ	 筋力向上			1Ex	2Ex	3Ex
日	 庭仕事	 庭仕事	 筋力向上			1Ex	2Ex	3Ex
合計						8Ex	15Ex	23Ex

図 8.2 1 週間の身体活動例

図 8.2 で示すような 1 週間単位の身体活動記録を管理することを目指している。

運動情報は運動を実施した記録を管理する。日々の記録と週間単位で運動プログラムを作成、実施することから 1 日ごとの管理と週間ごとの管理が必要がある。

<エクササイズガイド 2006> に基づいた運動情報が記述できることを目指す。

身体活動を運動及び生活活動に分けて管理しているので運動の種類でその区別を行なう

必要がある。

データ項目としては運動の種類、メッツ、運動時間、エクササイズ、1日のエクササイズ、週間エクササイズからなる。その日に行なった運動の種類ごとに身体活動のメッツ表よりメッツを求めそれに運動実施時間を掛けてその運動の1日のエクササイズを計算し記録する。

1日のエクササイズはその日に行なった身体活動のすべてのエクササイズを合計する。運動の種類を記録せず1日のエクササイズのみ記録することも可能である。1週間分を合計して週間のエクササイズを記録する。1週間ごとのエクササイズのみを記録しても良い。詳細は別紙1の項目定義一覧による。

身体活動のメッツ表は以下の URL に「身体活動のメッツ(MET s)表」(http://www.nih.go.jp/eiken/programs/pdf/mets_n.pdf)としてコード化されているのでこれを推奨する。

これは翻訳版なので欧米の生活に合わせた運動の分類になっているところもあるため、当面、各事業者で身体活動のメッツ表を作成しても良い。

その場合はエクспортファイルに身体活動のメッツ表を外部参照ファイルとして添付する。

身体活動のメッツ表のファイル形式は当面、特に定めず、7.2 3)に記載された標準化あるいはデファクトスタンダードにあたる形式とする。その場合、記録に利用された該当項目だけでなく表全体を添付する。

8.5. 健診情報

健診情報には特定健診等の健診結果の情報と生活機能評価の情報が含まれる。

特定健診情報と生活機能評価の記述形式は定められているのでこの情報をエクспортする場合はこれを外部参照ファイルとする。

現状では特定健診以外の健診情報の形式は定まったものがないので「7.2. 外部参照ファイルのリンク方法」に準じて各施設で使用しているものを外部参照ファイルとしてよい。

現在、HL7 協会と厚生労働省の科研(大江班)が共同して健診結果報告書の標準化を進めているので、将来的にはその結果を利用することが望ましい。

生活機能評価は特定健診とは別ファイルとして外部参照ファイルとする必要がある。

8.6. 指導情報

指導情報には特定健診に付帯して実施される特定保健指導のみでなく、糖尿病に対する指導、例えば運動指導、栄養指導等も含まれる。

現状では特定健診の結果に対する指導情報以外の指導情報の形式は定まったものがない

ので「7.2. 外部参照ファイルのリンク方法」に準じて各施設で使用しているものを外部参照ファイルとしてよい。

8.7. 診療情報

診療情報は医療基本情報、診療情報提供書、検査情報、薬歴情報よりなる。

1)医療基本情報

医療基本情報はアレルギー情報、血液型、既往歴情報からなる。主に日々変化しない基本的な医療情報を記述する。

アレルギー情報

「相互運用性システム設計書」の患者情報(アレルギー情報)を外部参照ファイルとしてリンクして用いる。

血液型

血液型の項目名及び項目コードは特定健診項目コード表(1.2.392.200119.6.1005)XML 表示名及び項目コードを用いる。

例えば「試験管法 カラム凝集法」による ABO 型は「項目名：血液型(ABO)、項目コード：5H010000001810111」であり、Rh 型は項目名：血液型(Rh)、項目コード：5H020000001810111 である。

データコードは「特定健診・特定保健指導の電子的標準様式に仕様する OID 表」を用いる。

血液型(ABO)(1.2.392.200119.6.2115)は「1:A 2:B 3:AB 4:O」となり、血液型(Rh)(1.2.392.200119.6.2116)は「1:+ 2:-」となる。

さらに、オプションで登録日、登録者を記述する。

既往歴情報

医師等へ過去の重要と思われる診療経過を説明する情報である。

登録日、登録者、既往歴よりなる。既往歴は当面自由記述とする。

関連するものとして、「相互運用性システム設計書」では患者情報(入退院歴)、患者情報(受診歴)あるいは病名情報として、HL7 メッセージが定義されている。

今後、PHR の活用動向にあわせて、これらが検討され、最適なものが構成されていくことが望まれる。

2)診療情報提供書

HL7J-CDA-005 診療情報提供書規格(医療機関への紹介状)を外部参照ファイルとしてリンクする。

3)検査情報

検査情報は初診時の検査や治療フォローアップの為の検査、あるいは糖尿病患者や高血圧患者の定期的フォローアップの為の検査データを管理する。

検体検査情報に関しては「相互運用性システム設計書」の検査結果(検体検査)メッセージを外部参照ファイルとしてリンクする。

その他の検査画像ファイル等を管理する場合は外部参照ファイルとしてリンクしても良い。

4)薬歴情報

薬歴情報として処方情報、調剤情報(お薬手帳情報)、服薬情報がある。

処方情報

処方情報は「相互運用性システム設計書」のオーダ情報(処方)メッセージを用いる。

調剤情報

調剤情報は東京大学医学部附属病院 企画情報運営部が周辺の関連薬局と関連ベンダーでまとめつつある「電子的調剤情報提供書 CDA 記述仕様」(文書区分コード表 OID=1.2.392.200250.2.1.1.1) に準じたファイルを外部参照ファイルとすることを推奨する。この仕様は現在検証中であるので今後変更があり得るので注意が必要である。

また、本仕様は薬局が処方せんを発行した医療機関へ調剤済情報を提供する時に用いる文章を CDA 文書形式で記述したものであり、個人へ電子お薬手帳として提供することを意図したものではないが、必要な情報が含まれ、今後薬局で作成されることが期待されるので当面はこれを流用することが望ましい。

HL7 では調剤情報として-「薬剤/処置 調剤メッセージ(RDS)」が定義され、「相互運用性システム設計書」のオーダ情報(処方)メッセージに調剤セグメント(RXD)を加えたものになっている。しかし、お薬手帳としての標準化提案及び実証評価がなされていないので今後の課題である。

服薬情報

毎日どのような薬を、朝昼夕、就寝前に服用したかを記述するものである。現在、定まったものが公表されていない。従って本規格では自由フォーマットとする。詳細は今後の課題とする。

8.8. 本文外部参照ファイル化情報

一定の単位ごと、例えば 1 年後ごとの C D A 文書本文を本文外部参照ファイルとして管理するためのリンク情報を記述する。方式は「7.3. CDA 文書本文のボディ部情報の外部参照ファイル化」による。

別紙 1 PHR データ交換規格
項目定義一覧

PHRデータ交換規格 項目定義一覧の見方

- 1)「繰り返し」について:データ項目または分類が複数の値を保持する場合、繰り返し可能として「*」で示される。単一の値しか保持しない場合は、繰り返し不可として、「1」で示される。
例えば中分類「勤務先情報(項番130)」について、小分類「勤務先名(項番131)」は単一の値しか保持しないが、小分類「勤務先住所(項番134)」と小分類「勤務先連絡先(144)」はそれぞれ複数の値を保持することができるため、ひとつの勤務先について本社・支社及び代表電話番号・内線電話番号等複数の情報が保持できる構造となっている。また、中分類「勤務先情報(項番130)」の繰り返しが可能のため、同様の情報を複数社で保持することが可能となっている。
- 2)「繰り返し」について:小分類「住所」と小分類「連絡先」について、それぞれ別々に繰り返し(複数の値を保持)可能としている。連絡先はそれらの住所とは独立した属性と考える。連絡先は組織や人に対して最適なものがその住所と独立に設定されると考えるからである。たとえば、利用者の住まいとしての住所があるが、連絡方法として携帯電話を連絡先として設定したり、固定電話を設定する等である。
- 3)「入力要否」について:データ項目または分類の入力が必須の場合は「1」、入力が任意の場合は「0」で示される。中分類または小分類が「0」(任意)の場合、その分類の作成は任意であるが、作成する場合は、分類内のデータ項目の少なくとも1つに値を入力する必要がある(いずれのデータ項目も入力しない場合、その分類を作成しない)。
例えば小分類「利用者ID(項番56)」について、データ項目「提供元機関における利用者ID」の入力は必須であるが、その他のIDの入力は任意である。

注)文字は数字及びアルファベットのみで文字列は半角、その他は全角とする

利用文字コード	文字コード	文字コード	1	1	コード	20	ISO/IEC10646:2003		
		コード体系	1	1	文字列	10	UTF-8		
項目分類			項目情報						
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力可否 (1:必須、 0:任意)	繰返し (1:1回のみ、 *:複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
1	エクスポートパッケージ情報				1	1			エクスポートパッケージに関する情報
2		作成日情報			1	1			エクスポートパッケージの作成日時
3				エクスポートパッケージ作成日時	1	1	日付時間	14	エクスポートパッケージの作成日時
4		パッケージID			1	1			エクスポートパッケージのID
5				パッケージID	1	1	文字列	10	エクスポートパッケージのID 機関内のパッケージを一意に特定するIDであり、提供元機関ID及び日付と合わせて、全パッケージにおいて一意に特定できるように設定する
6		パッケージ有効期限			1	1			エクスポートパッケージの有効期限
7				パッケージ有効期限	1	1	日付	8	エクスポートパッケージの有効期限(提供先機関及び利用者からの問い合わせに提供元機関が対応する期間)
8		提供元機関情報			1	1			エクスポートパッケージ作成機関の情報を記載する エクスポートパッケージ作成機関が本パッケージに記載されている情報の作成者であるとは限らない
9			提供元機関ID		1	1			エクスポートパッケージを提供する機関のID
10				提供元機関ID	1	1	文字列	12	エクスポートパッケージを提供する機関のID 機関を一意に特定できる必要がある 当面、当該機関の国番号(81)を先頭に付した電話番号とする ex.)03-1234-5678ならば、81312345678
11			提供元機関名		1	1			エクスポートパッケージを提供する機関の名称
12				提供元機関名	1	1	文字列	80	エクスポートパッケージを提供する機関の名称
13			提供元機関住所		1	1			提供元機関の住所と、その郵便番号・都道府県・市区町村
14				提供元機関住所(国名)	1	1	国コード	2	"JP"固定
15				国名	1	1	文字列	20	"日本"固定
16				コード体系	1	1	文字列	9	"ISO3166-1"固定
17				提供元機関住所(都道府県)	1	1	都道府県コード	2	提供元機関の住所の都道府県コード
18				都道府県名	1	1	文字列	20	都道府県名
19				コード体系	1	1	文字列	10	"JIS X 0401"
20				提供元機関住所(郵便番号)	1	1	郵便番号	8	提供元機関の郵便番号
21				提供元機関住所(市、区、郡)	1	1	文字列	20	提供元機関の住所の市、区、郡
22				提供元機関住所(町村丁字番地等)	1	1	文字列	100	提供元機関の住所の町村丁字番地等
23		提供元機関連絡先			1	*			提供元機関の電話番号、メールアドレスなど連絡先に関する情報
24				連絡先区分	1	1	通信先区分コード	3	提供元機関の連絡先の区分 HL7定義の通信先区分コードを使用
25				連絡先区分名	1	1	文字列	20	コードに対応する連絡先分類名
26				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信先区分コード"
27				通信使用機器	1	1	通信使用機器コード	10	電話、ファックス、メールなど通信に使用する機器のコード
28				通信使用機器名	1	1	文字列	20	コードに対応する使用機器の名称
29				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信使用機器コード"
30				連絡先	1	1	文字列	40	提供元機関の連絡先

項目分類				項目情報					
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力要否 (1: 必須、 0: 任意)	繰返し (1: 1回のみ、 *: 複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
31	エクスポートパッケージ情報(続き)	提供先機関情報			0	*			エクスポートパッケージの提供を受ける機関に関する情報 提供先機関の指定がある場合に、記載する 利用者本人からの希望があれば、記載された機関以外がインポートして問題ない
32			提供先機関ID		0	1			エクスポートパッケージを提供を受ける機関のID
33				提供先機関ID	1	1	文字列	12	エクスポートパッケージを提供を受ける機関のID 機関を一意に特定できる必要がある
34		提供先機関名			0	1			エクスポートパッケージを提供を受ける機関の名称
35				提供先機関名	1	1	文字列	80	エクスポートパッケージを提供を受ける機関の名称
36		提供先機関住所			0	1			提供先機関の住所と、その郵便番号・都道府県・市区町村
37				提供先機関住所(国名)	0	1	国コード	2	"JP"固定
38				国名	0	1	文字列	20	"日本"固定
39				コード体系	0	1	文字列	9	"ISO3166-1"固定
40				提供先機関住所(都道府県)	0	1	都道府県コード	2	提供先機関の住所の都道府県コード
41				都道府県名称	0	1	文字列	20	都道府県名
42				コード体系	0	1	文字列	10	"JIS X 0401"
43				提供先機関住所(郵便番号)	0	1	郵便番号	8	提供先機関の郵便番号
44				提供先機関住所(市、区、郡)	0	1	文字列	20	提供先機関の住所の市、区、郡
45				提供先機関住所(町村丁字番地等)	0	1	文字列	100	提供先機関の住所の町村丁字番地等
46		提供先機関連絡先			0	*			提供先機関の電話番号、メールアドレスなど連絡先に関する情報
47				連絡先区分	1	1	通信先区分コード	3	提供先機関の連絡先への区分。HL7定義の通信先区分コードを使用
48				連絡先区分名	1	1	文字列	20	コードに対応する連絡先分類名
49				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信先区分コード"
50				通信使用機器	1	1	通信使用機器コード	10	電話、ファックス、メールなど通信に使用する機器のコード
51				通信使用機器名	1	1	文字列	20	コードに対応する機器タイプの名称
52				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信使用機器コード"
53				連絡先	1	1	文字列	40	提供先機関の連絡先
54	PHRシステム利用者情報				1	1			利用者のプロフィール、勤務先、緊急連絡先に関する情報
55		利用者基本情報			1	1			氏名、連絡先、職業等、利用者に関する情報
56			利用者ID		1	1			提供元機関での利用者IDに加え、地域連携IDなどの識別子
57				提供元機関における利用者ID	1	1	文字列	12	利用者の提供元機関でのID 機関内で利用者を一意に特定できる必要がある
58				提供先機関における利用者ID	0	1	文字列	12	利用者の提供先機関でのID 機関内で利用者を一意に特定できる必要がある
59				地域連携ID	0	1	文字列	12	利用者の地域連携ID
60				保険証ID(保険者番号)	0	1	文字列	8	利用者の保険証ID(8バイトに満たない場合には先頭のゼロをつける)
61				保険証ID(被保険者証等記号)	0	1	文字列	40	利用者の被保険者証等の記号
62				保険証ID(被保険者証等番号)	0	1	文字列	40	利用者の被保険者証等の番号
63		利用者氏名			0	1			利用者のフルネーム/姓/名の漢字/カタカナ/ローマ字での表記
64				利用者氏名(フルネーム)	0	1	文字列	40	利用者の氏名(漢字)
65				利用者氏名(ローマ字)(フルネーム)	0	1	文字列	80	利用者の氏名のローマ字表記(ファーストネーム、ミドルネーム、ラストネーム)
66				利用者氏名(カナ)(フルネーム)	0	1	文字列	80	利用者の氏名(カナ)
67				利用者氏名(姓)	0	1	文字列	20	利用者の姓(漢字)
68				利用者氏名(ローマ字)(姓)	1	1	文字列	40	利用者の姓のローマ字表記
69				利用者氏名(カナ)(姓)	0	1	文字列	40	利用者の姓(カナ)
70				利用者氏名(名)	0	1	文字列	20	利用者の名(漢字)
71				利用者氏名(ローマ字)(名)	1	1	文字列	40	利用者の名のローマ字表記
72				利用者氏名(カナ)(名)	0	1	文字列	40	利用者の名(カナ)
73		住所			0	*			利用者の住所と、その郵便番号・都道府県・市区町村
74				住所(国名)	0	1	国コード	2	"JP"固定
75				国名	0	1	文字列	20	日本(固定)
76				コード体系	0	1	文字列	9	"ISO3166-1"固定
77				住所(都道府県)	0	1	都道府県コード	2	利用者の住所の都道府県コード
78				都道府県名称	0	1	文字列	20	都道府県名
79				コード体系	0	1	文字列	10	"JIS X 0401"
80				住所(郵便番号)	0	1	郵便番号	8	利用者の郵便番号
81				住所(市、区、郡)	0	1	文字列	20	利用者の住所の市、区、郡
82				住所(町村丁字番地等)	0	1	文字列	100	利用者の住所の町村丁字番地等

項目分類				項目情報					
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力要否 (1: 必須、 0: 任意)	繰返し (1: 1回のみ、 *: 複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
83	PHRシステム利用者情報(続き)	利用者基本情報(続き)	連絡先		0	*			利用者の電話番号、メールアドレスなど連絡先に関する情報
84				連絡先区分	1	1	通信先区分コード	3	利用者の連絡先の区分、HL7定義の通信先区分コードを使用
85				連絡先区分名	1	1	文字列	20	コードに対応連絡先の分類名称
86				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信先区分コード"
87				通信使用機器	1	1	通信使用機器コード	10	電話、ファックス、メールなど通信に使用する機器のコード
88				通信使用機器名称	1	1	文字列	20	コードに対応する機器タイプの名称
89				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信使用機器コード"
90				連絡先	1	1	文字列	40	利用者の連絡先
91			性別		0	1			利用者の性別
92				性別コード	1	1	使用者定義表コード	1	利用者の性別コード
93				性別	1	1	文字列	8	性別標記
94				コード体系	1	1	文字列	40	"HL7使用者定義表0001Sex-性別"
95			生年月日		0	1			利用者の生年月日
96				生年月日	1	1	文字列	8	利用者の生年月日
97		緊急連絡先			0	*			利用者の緊急連絡先に関する情報
98			緊急連絡先氏名		0	1			利用者の緊急連絡先氏名に関する情報
99				緊急連絡先氏名(フルネーム)	0	1	文字列	40	緊急連絡先の氏名(漢字)
100				緊急連絡先氏名(ローマ字)(フルネーム)	0	1	文字列	80	緊急連絡先の氏名のローマ字表記(ファーストネーム、ミドルネーム、ラストネーム)
101				緊急連絡先氏名(カナ)(フルネーム)	0	1	文字列	80	緊急連絡先の氏名(カナ)
102				緊急連絡先氏名(姓)	0	1	文字列	20	緊急連絡先の姓(漢字)
103				緊急連絡先氏名(ローマ字)(姓)	0	1	文字列	40	緊急連絡先の姓のローマ字表記
104				緊急連絡先氏名(カナ)(姓)	0	1	文字列	40	緊急連絡先の姓(カナ)
105				緊急連絡先氏名(名)	0	1	文字列	20	緊急連絡先の名(漢字)
106				緊急連絡先氏名(ローマ字)(名)	0	1	文字列	40	緊急連絡先の名のローマ字表記
107				緊急連絡先氏名(カナ)(名)	0	1	文字列	40	緊急連絡先の名(カナ)
108				利用者との続柄	0	1	続柄コード	2	続柄コード値
109				続柄の名称	0	1	文字列	20	続柄
110				コード体系	0	1	文字列	40	"続柄コード"
111			緊急連絡先住所		0	*			利用者の緊急連絡先の住所、その郵便番号・都道府県・市区町村
112				住所(国名)	0	1	国コード	2	"JP"固定
113				国名	0	1	文字列	20	日本(固定)
114				コード体系	0	1	文字列	8	"ISO3166-1"固定
115				住所(都道府県)	0	1	都道府県コード	2	利用者の緊急連絡先の住所の都道府県
116				都道府県名	0	1	文字列	20	都道府県名
117				コード体系	0	1	文字列	10	"JIS X 0401"
118				住所(郵便番号)	0	1	郵便番号	8	利用者の緊急連絡先の郵便番号
119				住所(市、区、郡)	0	1	文字列	20	利用者の緊急連絡先の住所の市および区、郡
120				住所(町村丁字番地等)	0	1	文字列	100	利用者の緊急連絡先の住所の町村丁字番地等
121			緊急連絡先		0	*			緊急連絡先への連絡手段、電話番号、メールアドレスなど
122				緊急連絡先区分	1	1	通信先区分コード	3	緊急連絡先の区分、HL7定義の通信先区分コードを使用
123				緊急連絡先区分名	1	1	文字列	20	コードに対応する連絡先分類名
124				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信先区分コード"
125				緊急連絡先通信使用機器	1	1	通信使用機器コード	10	電話、ファックス、メールなど通信に使用する機器のコード
126				緊急連絡先遠隔通信機器名	1	1	文字列	20	コードに対応する機器タイプの名称
127				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信使用機器コード"
128				緊急連絡先	1	1	文字列	40	利用者の緊急連絡先
129	PHRシステム利用者追加情報				0	1			ヘッダーに記述できない利用者属性情報を記述する
130		勤務先情報			0	*			利用者の勤務先に関する情報
131			勤務先名		0	1			利用者の勤務先名、所属などに関する情報
132				勤務先名	0	1	文字列	80	利用者の勤務先名
133				役職・所属	0	1	文字列	80	利用者の役職・所属
134			勤務先住所		0	*			利用者の勤務先の住所と、その郵便番号・都道府県・市区町村
135				住所(国名)	0	1	国コード	2	"JP"固定
136				国名	0	1	文字列	20	日本(固定)
137				コード体系	0	1	文字列	9	"ISO3166-1"固定
138				住所(都道府県)	0	1	都道府県コード	2	利用者の勤務先の住所の都道府県
139				都道府県名	0	1	文字列	20	都道府県名
140				コード体系	0	1	文字列	10	"JIS X 0401"
141				住所(郵便番号)	0	1	郵便番号	8	利用者の勤務先の郵便番号
142				住所(市、区、郡)	0	1	文字列	20	利用者の勤務先の住所の市、区、郡
143				住所(町村丁字番地等)	0	1	文字列	100	利用者の勤務先の住所の町村丁字番地等

項目分類				項目情報					
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力要否 (1: 必須、 0: 任意)	繰返し (1: 1回のみ、 *: 複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
144	PHRシステム利用者追加情報(続き)	勤務先情報(続き)	勤務先連絡先		0	*			利用者の勤務先の電話番号、メールアドレスなど連絡先に関する情報
145				連絡先区分	1	1	通信先区分コード	3	利用者の勤務先である連絡先の区分 HL7定義の通信先区分コードを使用
146				連絡先区分名	1	1	文字列	20	コードに対応する連絡先区分名
147				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信先区分コード"
148				通信使用機器	1	1	通信使用機器コード	10	電話、ファックス、メールなど通信に使用する機器のコード
149				通信使用機器名	1	1	文字列	20	コードに対応する機器の名称
150				コード体系	1	1	文字列	60	"HL7表通信使用機器コード"
151				連絡先	1	1	文字列	40	利用者の勤務先の連絡先
152		職歴			0	*			利用者の現在の職業を含む、職歴に関する情報
153				職歴	1	1	文字列	200	利用者の職歴
154		趣味			0	*			利用者の趣味に関する情報
155				趣味	1	1	文字列	200	利用者の趣味
156	日常情報				0	1			利用者本人が、日常の健康指標として記録する情報
157		基礎情報			0	1			利用者本人が測定した、体型に関する情報
158			身長		0	*			身長
159				測定日時	1	1	日付	14	身長の測定日時
160				身長	1	1	数値	5	利用者の身長(小数点以下1桁まで)データ長には小数点を含める
161				身長の単位	1	1	単位(cm)	2	身長の測定単位(cm)
162				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
163				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
164				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号
165			体重		0	*			体重
166				測定日時	1	1	日付	14	体重の測定日時
167				体重の種類	0	1	体重測定タイミングコード	2	体重の種類
168				測定のタイミング	0	1	文字列	10	コードに対応するタイミング
169				コード体系	0	1	文字列	40	"測定タイミングコード表"
170				体重	1	1	数値	6	利用者の体重(小数点以下2桁)
171				体重の単位	1	1	単位(kg)	2	体重の測定単位(kg)
172				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
173				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
174				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号
175		体脂肪			0	*			体脂肪
176				測定日時	1	1	日付	14	体脂肪率の測定日時
177				体脂肪率	1	1	数値	5	利用者の体脂肪率(小数点以下1桁)
178				体脂肪率単位	1	1	単位(%)	1	体脂肪率の単位(%)
179				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
180				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
181				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号
182		腹囲			0	*			腹囲
183				測定日時	1	1	日付	14	腹囲の測定日時
184				腹囲	1	1	数値	4	利用者の腹囲(小数点以下1桁)
185				腹囲単位	1	1	単位(cm)	2	腹囲の単位(cm)
186				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
187				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
188				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号
189		バイタルサイン情報			0	1			利用者本人が測定した、血圧に関する情報
190			血圧		0	*			血圧
191				測定日時	1	1	日付	14	血圧の測定日時
192				測定回数	0	1	数値	1	血圧の測定回数(1or2or3)
193				収縮期血圧測定値	1	1	数値	3	利用者の収縮期血圧
194				血圧単位	1	1	単位(mmHg)	4	血圧単位
195				拡張期血圧測定値	1	1	数値	3	利用者の拡張期血圧
196				血圧単位	1	1	単位(mmHg)	4	血圧単位
197				測定箇所	0	1	コード	2	血圧の測定箇所
198				測定箇所名称	0	1	文字列	20	測定箇所名称
199				コード体系	0	1	文字列	40	"血圧測定位置コード"
200				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
201				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
202				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号
203		脈拍			0	*			脈拍
204				測定日時	1	1	日付	14	脈拍の測定日時
205				脈拍	1	1	数値	2	利用者の脈拍
206				脈拍単位	1	1	単位(bpm)	3	脈拍単位(回/分=bpm)
207				機器情報(メーカー)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の製造メーカー
208				機器情報(型番)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器の型番
209				機器情報(ロット番号)	0	1	文字列	50	測定に用いた機器のロット番号

項目分類				項目情報					
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力要否 (1: 必須、 0: 任意)	繰返し (1: 1回のみ、 *: 複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
210	日常情報(続き)	喫煙情報			0	1			利用者の喫煙有無、平均喫煙本数等喫煙に関する情報
211			喫煙情報		0	*			利用者の喫煙有無、平均喫煙本数等喫煙に関する情報
212				基準日	0	1	日付	8	喫煙情報の登録日
213				喫煙の有無	0	1	コード	1	YまたはN
214				有無	0	1	文字列	8	有り、または無し
215				コード体系	0	1	文字列	40	"HL7表はいいえ" 標識
216				平均本数/日	0	1	数値	3	1日の平均喫煙本数
217				喫煙年数	0	1	数値	2	喫煙している期間(年)
218				喫煙月数	0	1	数値	2	喫煙している月数(月)
219		栄養情報			0	1			利用者の食事及び栄養状態に関する情報
220			料理コード表		0	*			SV量算出に用いた料理コード表の内容を外部参照ファイルとして添付
221				料理コード表名称	1	1	文字列	40	料理コード表の名称
222				作成日	1	1	日付	8	コード表作成日
223				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
224				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
225			食事内容情報		0	*			"食事バランスガイド"に基づく、利用者の食事情報
226				摂取日	1	1	日付	8	摂取した日付
227				食事の種類	0	1	食事分類コード	2	食事の種類(朝食/昼食/夕食/間食・その他)
228				食事の種類	0	1	文字列	20	朝食/昼食/夕食/間食・その他
229				コード体系	0	1	文字列	40	"食事分類コード"
230				料理名	0	*	文字列	300	摂取した料理の名称
231				(細分類)摂取内容	0	*			1日に摂取した食事の内容
232				主食つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	主食SV量(実績)(小数点以下1桁)
233				副菜つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	副菜SV量(実績)(小数点以下1桁)
234				主菜つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	主菜SV量(実績)(小数点以下1桁)
235				牛乳・乳製品つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	牛乳・乳製品SV量(実績)(小数点以下1桁)
236				果物つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	果物つ(SV)量(実績)
237				カロリー(kcal)	0	1	数値	7	各料理で摂取したカロリー(単位はkcal)(小数点以下2桁)
238				SV量算出に用いた料理コード表	0	1	文字列	80	SV量算出に用いた料理コード表
239			1日の摂取量		0	*			1日の摂取量
240				摂取日	1	1	日付	8	摂取した日付
241				(細分類)摂取内容	0	1			摂取した食事の内容
242				1日の合計主食つ(SV)量(実績)	0	1	数値	4	主食SV量(実績)(小数点以下1桁)
243				1日の合計副菜つ(SV)量(実績)	0	1	数値	4	副菜SV量(実績)(小数点以下1桁)
244				1日の合計主菜つ(SV)量(実績)	0	1	数値	4	主菜SV量(実績)(小数点以下1桁)
245				1日の合計牛乳・乳製品つ(SV)量(実績)	0	1	数値	4	牛乳・乳製品SV量(実績)(小数点以下1桁)
246				1日の合計果物つ(SV)量(実績)	0	1	数値	3	果物つ(SV)量(実績)
247				1日の合計摂取カロリー(kcal)	0	1	数値	7	1日で摂取したカロリー(単位はkcal)(小数点以下2桁)
248				SV量算出に用いた料理コード表	0	1	文字列	80	SV量算出に用いた料理コード表
249		運動情報			0	1			利用者の運動に関する情報
250			身体活動のメツ表		0	*			エクササイズ算出に用いた身体活動のメツ表の内容を外部参照ファイルとして添付
251				身体活動のメツ表名称	1	1	文字列	40	身体活動のメツ表の名称
252				作成日	1	1	日付	8	コード表作成日
253				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
254				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
255			実施内容情報		0	*			利用者が行った運動に関する情報
256				運動実施日時	1	1	日付	14	運動の実施日
257				運動の種類	0	1	コード	3	実施した運動の種類
258				名称	0	1	文字列	40	実施した運動の名称
259				コード体系	0	1	文字列	20	"運動の種類表"
260				身体活動の種類	0	1	コード	6	実施した身体活動の種類(ローカルコード)
261				身体活動の名称	0	1	文字列	40	運動の名称
262				コード体系 (使用した身体活動のメツ表)	0	1	文字列	40	コード表の名称
263				メツ	0	1	数値	4	実施した運動のメツ(運動強度)(小数点以下1桁)
264				運動実施時間	0	1	数値	4	運動を実施した時間(単位は分)
265				エクササイズ	1	1	数値	5	実施した運動量(小数点以下1桁)
266				消費カロリー(kcal)	0	1	数値	7	実施した運動による消費カロリー(kcal)(小数点以下2桁)
267			1日の運動量		0	*			1日の合計運動量
268				実施日	1	1	日付	8	運動の実施日
269				歩数	0	1	数値	5	1日に歩いた歩数
270				1日のエクササイズ	0	1	数値	5	実施した運動量(小数点以下1桁)
271				消費カロリー(kcal)	0	1	数値	7	1日で消費したカロリー(単位はkcal)
272			1週間の運動量		0	*			1週間の合計運動量
273				基準日	1	1	日付	8	1週間を同定する基準日
274				週間エクササイズ	0	1	数値	6	実施した運動量(小数点以下1桁)

項目分類				項目情報					
項番	大分類	中分類	小分類	項目名	入力要否 (1: 必須、 0: 任意)	繰返し (1: 1回のみ、 *: 複数回)	データ型	最大 データ長 (バイト数)	説明
275	健診情報				0	*			健康診断に関する情報
276				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
277				健康診断情報作成日	1	1	日付	8	健康診断情報の作成日
278				実施した健康診断の種類	0	1	文字列	40	実施した健康診断の種類を自由記述
279				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
280				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
281	指導情報				0	*			指導に関する情報
282				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
283				指導情報作成日	1	1	日付	8	指導情報の作成日
284				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
285				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
286	診療情報				0	1			診療情報提供書及び診療時に用いる利用者に関する情報
287		医療基本情報			0	1			診療時に用いる利用者に関する情報
288			アレルギー情報		0	*			「医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクトシステム設計書」に準ずる。
289				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
290				情報登録日	1	1	日付	8	アレルギー情報の登録日
291				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
292				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
293			血液型		0	1			特定健診の項目コード表およびデータコードに準ずる
294				ABO型血液型コード	1	1	コード	1	1/2/3/4
295				ABO型血液型	1	1	文字列	2	血液型
296				コード体系	1	1	文字列	40	“ABO式血液型コード表”
297				Rh型血液型コード	1	1	コード	1	1または2
298				Rh型血液型	1	1	文字列	1	Rh型血液型
299				コード体系	1	1	文字列	40	“Rh型血液型コード表”
300				情報登録日	0	1	日付	8	血液型の登録日
301				登録者	0	1	文字列	40	フルネーム(漢字またはローマ字)
302			既往歴情報		0	*			既往歴に関する情報
303				既往歴	1	1	文章	400	自由記述
304				情報登録日	0	1	日付	8	既往歴情報の登録日
305				登録者	0	1	文字列	40	フルネーム(漢字またはローマ字)
306			診療情報提供書		0	*			「診療情報提供書規格」に準ずる。
307				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
308				診療情報作成日	1	1	日付	8	診療情報の作成日
309				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
310				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
311		検査情報			0	*			「医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクトシステム設計書」に準ずる。
312				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
313				検査情報作成日	1	1	日付	8	検査情報の作成日
314				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
315				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
316		薬歴情報			0	*			調剤情報は「電子的調剤情報提供書」に処方情報は「医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクトシステム設計書」に準ずる。服薬情報は任意形式とする。
317				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
318				処方/調剤/実施情報作成日	1	1	日付	8	処方/調剤実施情報の作成日
319				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
320				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス
321	本文外部参照 ファイル化情報				0	1			CDA文書本文を本文外部参照ファイル化して管理するための情報
322		CDA文書本文			0	*			一定単位ごとのCDA文書本文の外部参照ファイル
323				名称	1	1	文字列	40	外部参照ファイルの文書名
324				CDA文書本文作成開始日	1	1	日付	8	CDA文書本文を同定する作成開始日
325				CDA文書本文作成終了日	1	1	日付	8	CDA文書本文を同定する作成終了日
326				コメント	1	1	文字列	40	基準日の定義を自由記述する。
327				ハッシュコード	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのハッシュコード
328				パス	1	1	文字列	40	外部参照ファイルのパス

別紙 2 PHR データ交換規格
データコード表

1. はじめに

このデータコード表は、健康情報活用基盤実証事業において利用する標準規格項目を定義するに際して必要となる用語とそのコードをまとめたものである。ここで使用される用語・コードは、この事業のために設定したものもあるが、できるだけ既存のものを利用することとした。既存の用語・コードを使用するに当たってはタイトルに元の標準化団体名を入れるようにしている。

2. 健康情報活用基盤実証事業向け標準規格項目向け用語・コード

2.1 文字コード

文字コードは特に断らない限り Unicode の UTF-8(ISO/IEC10646:2003) を原則として用いる。

2.2 国コード、都道府県コード

国コードについては ISO3166-1 を、都道府県名コードについては JIS X 0401 を用いる。

ISO3166-1 国コード表

日本 JP

JIS X 0401 日本の都道府県コード表

都道府県	コード	都道府県	コード	都道府県	コード
愛知	23	鹿児島	46	佐賀	41
秋田	05	神奈川	14	埼玉	11
青森	02	高知	39	滋賀	25
愛媛	38	熊本	43	島根	32
岐阜	21	京都	26	静岡	22
群馬	10	三重	24	千葉	12
広島	34	宮城	04	栃木	09
北海道	01	宮崎	45	徳島	36
福井	18	長野	20	東京	13
福岡	40	長崎	42	鳥取	31
福島	07	奈良	29	富山	16
兵庫	28	新潟	15	和歌山	30
茨城	08	大分	44	山形	06
石川	17	岡山	33	山口	35
岩手	03	沖縄	47	山梨	19
香川	37	大阪	27		

2.3 通信関連コード

HL7 通信先区分コード表

印刷名	コード値	説明
home Address	H	自宅の通信目的の住所。仕事上の接触に利用する場合プライバシーを侵害する恐れ有り。目的の人に代わって家族や関係者と接触できる可能性がある。緊急の場合や他に適当な手段がない場合に利用
primary home	HP	就業時間以降に目的の人とコンタクト取れる家
vacation home	HV	休暇中過ごす家。休暇中にコンタクトを取れる家
work place	WP	オフィスの住所。就業時間中に仕事関係の目的でコンタクトする場合の優先候補
direct	DIR	直接的に目的の個人や組織とコンタクト取れるオフィスの住所。電話あるいは専用線
public	PUB	受付やメールルームなど代表番号であるオフィスや通信のアドレス
bad address	BAD	住所が実際には役に立たないものであることを示すフラグ
temporary address	TMP	訪問したり手紙を出したりできる一時的な家。住所歴がより詳細な情報を提供できることに注意
answering service	AS	非緊急時やメッセージを残す目的で使用する自動音声応答マシン
emergency contact	EC	緊急にコンタクトをとるため。緊急時に第1優先
mobile contact	MC	持ち主とともに移動する通信機器
pager	PG	コールバック依頼メッセージや短いメッセージを残すための機器

HL7 通信使用機器コード表

印刷名	コード値	説明
Fax	fax	電話番号はファックス用
File	file	ホスト特定のローカルファイル名。ファイルによる方法はローカルファイルに対してのみ利用可能であることに注意。受信システムは当該ファイルにほとんどアクセス不可であるので、システム間でローカルファイルによる交換はまれにしか行われない
FTP	ftp	File Transfer Protocol
HTTP	http	Hypertext Transfer Protocol
Mailto	mailto	電子メールアドレス
MLLP Modem	mllp modem	電話番号はモデム機器用
NFS	nfs	Network File System Protocol. いくつかのサイトでは NFS サーバをデータファイルを共有するために利用
Telephone	tel	音声電話番号
Telnet	telnet	対話セッション。いくつかのサイトでは TTY ベースの遠隔問い合わせセッションを、telnet を介して利用できる

2.4 性別

HL7 使用者定義 Sex - 性別コード表

名称	コード
女性(Female)	F
男性(Male)	M
その他(Other)	O
未知(Unknown)	U
両性具有(Ambiguous)	A
適応外(Not Applicable)	N

2.5 続柄コード

PHR データ交換規格 続柄コード

内容	コード値
男の子供の n 番目(不明時は n を省略可)	Bn
n 番目に出産した子供(不明時は n を省略可)	Cn
父	F
女の子供の n 番目(不明時は n を省略可)	Gn
夫	H
n 人上の姉(不明時は n を省略可)	Ln
n 人下の妹(不明時は n を省略可)	In
母	M
親(母または父)	P
n 人上の兄(不明時は n を省略可)	Rn
n 人下の弟(不明時は n を省略可)	rn
本人	J
妻	W
内縁の関係	N
親戚	V
共同生活者	D
後見人	K
介護者	Q
民生委員	S
隣人	T
友人	Y
不明	U
その他	O

- ・ 上記以外の続柄は、これらのコードを組み合わせることでコードとすることができる
(例：父方の祖父 = F F、父方の祖母 = F M、祖父 = P F、祖父または祖母 = PP、孫 = CC、父の兄 = FR、長女の夫 = G1H 等)
- ・ 内縁の関係(N)は、単独で使われるものではなく、その直後に記載されたコードの人物と内縁の関係にあることを示す形容詞として利用する。
(例：兄の内縁の妻 = RNW)
- ・ 下記のコードについては単独で用い、他のコードとの組み合わせは不可とする。
V(親戚)、U(不明)、O(その他)

2.6 日常情報コード

JLAC10 日常情報コード表

日常情報	JLAC10 コード
身長	9M0110000000000001
体重	9M0210000000000001
脂肪率	9N0220000000000001
腹囲	9M0410000000000001
収縮期血圧	9A7510000000000001
拡張期血圧	9A7610000000000001
脈拍	取得(9A7P1000000000001)(仮)

体重測定タイミング表

測定タイミング	コード
朝食前測定	BW
夕食前測定	DW
以下以外の時点で測定	OT

血圧測定位置コード

血圧測定位置	コード
左腕前腕	LF
左手首	LW
右腕前腕	RF
右手首	RW

2.7 有り/無し、Yes/No

HL7 はい/いいえ標識表

記述	コード
はい(Yes)	Y
いいえ(No)	N

2.8 食事分類コード

食事分類コード表

食事分類	コード
朝食	BF
昼食	LC
夕食	SP
間食、その他	MM

2.9 つ(SV)早見表

つ(SV)早見表(農林水産省「食事バランスガイド」活用資料集より)

主な料理・食品の「つ(SV)」早見表

料理名	主食	副菜	主菜	牛乳・乳製品	果物
ごはん(小盛り)	1	—	—	—	—
ごはん(普通盛り)	1.5	—	—	—	—
ごはん(大盛り)	2	—	—	—	—
まぜごはん(普通盛り)	1.5	—	—	—	—
おにぎり	1	—	—	—	—
ずし(にぎりずし8個)	2	—	2	—	—
親子丼	2	1	2	—	—
天丼	2	—	1	—	—
かつ丼	2	1	3	—	—
カレーライス	2	2	2	—	—
チャーハン	2	1	2	—	—
マカロニグラタン	1	—	—	2	—
食パン(6枚切り)	1	—	—	—	—
ロールパン(2個)	1	—	—	—	—
ミックスサンドイッチ	1	1	1	1	—
ハンバーガー	1	—	2	—	—
うどん/そば/ラーメン	2	—	—	—	—
スパゲッティ	2	1	—	—	—
焼きそば	1	2	1	—	—
肉まん	1	—	—	—	—
お好み焼き	1	1	3	—	—
たこ焼き	1	—	1	—	—
トマト/枝豆	—	1	—	—	—
生野菜のサラダ	—	1	—	—	—
酢の物/おひたし	—	1	—	—	—
和えもの/ごま和え	—	1	—	—	—
きんぴらごぼう	—	1	—	—	—
野菜いため	—	2	—	—	—
野菜の煮物(小ばち)	—	1	—	—	—
野菜の煮物(中ばち)	—	2	—	—	—
ポテトサラダ	—	1	—	—	—
ポテトフライ	—	1	—	—	—
コロケ	—	2	—	—	—
里いもの煮物	—	2	—	—	—
きのこいため	—	1	—	—	—
海藻サラダ	—	1	—	—	—
ひじきの煮物	—	1	—	—	—
貝だくさんみそ汁	—	1	—	—	—
コンスープ	—	1	—	—	—
野菜ジュース	—	1	—	—	—
ウインナー	—	—	1	—	—
焼き鳥(2本)	—	—	2	—	—
からあげ(3個)	—	—	3	—	—
ギョーザ・シュウマイ(5個)	—	1	2	—	—
しょうが焼き(3枚)	—	—	3	—	—
とんかつ	—	—	3	—	—
ハンバーグ	—	1	3	—	—
ミニハンバーグ	—	—	1	—	—
肉野菜いため	—	2	2	—	—
肉じゃが(中ばち)	—	3	1	—	—
クリームシチュー	—	3	2	1	—
さしみ(6切れくらい)	—	—	2	—	—
焼き魚/煮魚	—	—	2	—	—
魚のフライ	—	—	2	—	—
天ぷら盛り合わせ	—	1	2	—	—
目玉焼き/卵焼き(卵1個分)	—	—	1	—	—
オムレツ(卵2個分)	—	—	2	—	—
なつとう	—	—	1	—	—
冷やっこ	—	—	1	—	—
マーボー豆腐	—	—	2	—	—
牛乳(200ml)	—	—	—	2	—
ヨーグルト(1パック)	—	—	—	1	—
プロセスチーズ(1枚)	—	—	—	1	—
みかん/かき(1個)	—	—	—	—	1
りんご/なし(半分)	—	—	—	—	1
いちご(6個)	—	—	—	—	1
バナナ(1本)	—	—	—	—	1
100%フルーツジュース	—	—	—	—	1

※この「つ(SV)」は大人が食べる標準的な量をもとに計算しています。子どもの場合は、一人前の量がこれよりも少ないこともあります。

ヒモ(お菓子・嗜好飲料)のカロリー早見表

名前	kcal	名前	kcal	名前	kcal
メロンパン(1個)	443kcal	せんべい(3枚)	206kcal	ゼリー(1個)	102kcal
ショートケーキ(1個)	378kcal	クリームパン(1個)	201kcal	チョコレート菓子(20g)	100kcal
アイスクリーム(小1個)	270kcal	シュークリーム(1個)	191kcal	チョコレート(約1/4枚)	84kcal
大福もち(1個)	255kcal	ドーナツ(1個)	177kcal	あめ(3つ)	78kcal
どら焼き(1個)	241kcal	ポテトチップス(約1/2袋)	168kcal	缶コーヒー	72kcal
クッキー(6枚)	233kcal	スポーツドリンク(500ml)	135kcal	シャーベット(1個)	70kcal
コーラ(500ml)	230kcal	カステラ(1切れ)	128kcal		
あんぱん(1個)	218kcal	プリン(1個)	113kcal		

※カロリー数は標準的な量の場合のもので、大きさによって違うこともあります。

2.10 運動の種類コード

運動の種類表

運動の種類	コード
運動	ATT
生活活動	LFA

2.11 血液型コード

ABO 型血液型コード表

ABO 型	コード
A	1
B	2
AB	3
O	4

Rh 型血液型コード表

Rh 型	コード
+	1
-	2